

車座トーク（内海） 概要

開催日時：2025年（令和7年）3月18日（火） 19時00分～20時30分

開催場所：うつみ市民交流センター

参加者数：8人

次 第：開会・参加者紹介

意見交換

まとめの挨拶

写真撮影・閉会

【意見交換の概要】

参加者からの主な意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・所属する内海町の将来を考える会は、内海町を基盤として25名程度で活動。空き家を紹介して、福山市の補助金を活用し定住者の増加を図っており、約70世帯、200名が移住されている。 ・美化活動については、町内の道路や海岸などの清掃の他に、不法投棄が多い箇所にはミニ鳥居を設置して美化に努めている。神石高原町との交流活動や、防災活動などを行っており、活動を継続することで地域の基礎・土台づくりができるのではないかと考えている。 ・数年前、横島の樋ノ口地区で大雨による水害が発生し、対策として樋ノ口樋門が完成した。近年異常気象が頻発する中、安全安心のまちづくりに貢献できると考えている。お礼を申し上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場で地域の基盤をしっかりと守っていく取組をされていて、本当にありがたい。 ・空き家の利活用の取り組みの中で、取組自体は伺っていたが、70世帯、200人という具体的な数字はあまり聞いたことがなかった。これは、大変な大きな成果と思う。 ・改めて詳しく、これまでの取組を伺い、他の地域の方に参考事例として内海の取組をお話したいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の活動を年3回行っている。シーパークの海開きやBBQなど、夏に浜辺で楽しむことを計画している。 ・毎年子ども会に入会する人数が減っている。内海町に学校がなくなり、こどもの人数を把握することが難しいと感じることもあり、みんなで楽しめるイベントがもっとできたらいいと思う。 ・秋祭りは自治会などが中心となって準備をしてくださる。チョーサやだんじりに乗るこどもたちの笑顔や笑い声に元気を貰え、みんなが何かを一緒にできていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動を中心に地域づくりに努めていると伺った。 ・学校再編の際には、地域の皆さん方に大変ご苦労いただき、或いはご心配をかけ、やっと思いで心の整理をつけた。 ・これからは、学校は想青学園や常石ともに学園へ行っているが、こどもたちの生活の基盤は内海にあるんだという地域づくりをしていかなければならないと思っている。 ・学校が想青学園に変わったからといって、こどもがいなくなったわけではない。こどもに声をかけて取組をしたいというときは、行政

参加者からの主な意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・マルシェやフィッシャーメンズフェストなど皆さんが計画して地域でやっていることに魅了されて、島に住んでみたいという人が増えたらいいと思う。 ・内海町にサイクリングロードがあれば、景色も良いため人も増えるのではないかと思う。 ・公園など、こどもたちが遊んだり集まれる場所がもっとあればいいと思う。 	<p>がお手伝いさせていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードや公園を作りたいという意見があった。 ・サイクリングロードは、今、福山から内海を含めた南部エリアを陸でつなごうという「陸の道構想」を提唱し始めた。サイクリストたちの招き入れ方やどういふサイクリングの楽しみ方ができるか考えていきたい。公園も、再編や利活用のあり方を議論しているため、内海にどんな公園が求められてるのか、議論をしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・元々は沼隈の出身だが、大阪から内海町に移住し、PTA 会長をしたことをきっかけに自治会のまちづくり活動に携わるようになった。 ・日頃の活動はにぎわいとは縁遠い活動が多く、日常の生活のことや、地域の行事のお手伝いや雑務が多いと感じている。 ・もともと内海町には知り合いもおらず、仕事のつながりもないため、自治会やまちづくり活動を積極的にしていても、内海のことを知らないことが多い。今回集まった方とも初めて会う方もいて、普段皆さんがどんな活動をしているのか知らない。にぎわいとは縁遠いく、積極的に活動されている皆さんと違う景色が見えているのではないかと思う。 ・限界集落であることは本当にリアルな問題。今後自治会長となった際、どうすれば今の生活水準を保てるのか、考えても答えが出ない難しい問題で、暗い方向に考えてしまうことが多い。 ・しかし、近頃、いろいろな方と交流させていただく機会があり、内海はまだまだ可能性があるということを知った。なぜそれを知らないのかと考えたときに、内海町の様々なところで分断が起こっていると感じる。 ・例えば地域の分断があり、元々小学校区が異なるなど、文化的な背景もあると思うが地域間のコミュニケーションが少ないと感じることが多い。また年代の分断も感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼隈出身だからよそ者ではないけれども、大いによそ者として振舞ってほしい。よそ者をどれだけ受け入れる度量があるかというのが、この内海の未来を決めるような気がする。救いは内海で生まれ育った人がこれだけ内海を愛していることだと思う。是非一緒になって頑張ってもらいたい。 ・コミュニケーションが少ないというお話があった。決して学校再編を正当化するものではないが、地域の活力が感じられなくなるのは学校のあるなしではない。公共機関のあるなし、インフラが十分完備されているかどうか、そういうことでも必ずしもない。どこかで必要なコミュニケーションが不足していることに尽きるのかもわからないという思いをもって聞いていた。 ・今、これからもそれぞれが大切な取組をしているが、限られた取組に留まっており横のつながりが必ずしも十分ではない。だからその取組を、熱量をもって続けていくことが難しくなってくる。 ・だが、どこかでつながっていれば少し肩の荷が下り、取組を継続しやすくなる。こういったこともあるのではないかという思いをもって聞いていた。 ・是非これまでの取組が、もう少し今度は横のつながりができることによって、若い人の参加もより多くなる取組ができれば、ちょっと

参加者からの主な意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・こういう機会があればもっと皆さんが動きやすくなると思うし、これまで皆さんの活動を知らなかったため応援することもなかった。自治会などを使えばもっと周知できるし、協力したい人もいるかもしれない。 ・この小さな分断をなくし、つなげていくことができれば見える景色も明るくなり、盛り上がればいいと思う。 ・コミュニケーションが不足している点について、町内の一体感を醸成していきたいと思うが、行政にも協力をお願いしていいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 寂しいなという思いも解消されるかもしれない。 ・今度、旧内海中学校の跡地にローズファイターズのこどもたちが来てくださる。是非こどもたちも練習の合間にいろいろな地域活動に参加する、おいしいものを食べる、そんなつながりができていけばいい。 ・コミュニケーションの場については、南部地域振興課を巻き込んでいただいていい。ただ、忘れてはいけないのが、主役は地域であり、行政はサポートさせていただく。
<ul style="list-style-type: none"> ・公園を管理するやまわり公園草刈クラブという団体に所属し、月に1回公園の維持管理、切石山と王城山の山道整備もしている。出稼ぎ隊が発足し、庭の手入れや地域の困りごとをお手伝いし、活動費に充てている。 ・年に1回田島漁協と一緒にうつみフィッシューマンズフェストを開催している。 ・内海町がこうなったらいいなという思いを地域の人と共有できていないと感じている。 ・何か物事を進めたり、特に答えを出すわけでもない、ざっくばらんに話し合えるうつみ妄想会議のようなものがあれば、お互いの考えを共有できて、協力し合える体制ができると思う。是非住民と行政で作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの憩いの場所である公園の維持管理に汗をかいていただき感謝申し上げます。 ・市内でも、簡単な草刈業務などの公共の仕事を地域が受け持ち、相当額を地域に支払う。そしてそれを空き家の整備など地域のために使うといった事例がある。行政がこれまでやってきたことを、地域の方が代わりにやっていただくということは、双方にとって良いと思うので、是非、南部地域振興課に相談してほしい。 ・情報共有できる場、大げさじゃなく、ざっくばらんに話せる場づくりについて、南部地域振興課が知恵を出していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・12年前に空き家対策事業で移住してきた。 ・島の方々に大変お世話になったので、自分たちでできることで、町おこししていきたい。2年前に備後ピザを開業した。特徴的なピザで、生地に福山大学で研究開発されたバラの酵母菌を使用し、発酵させている。 ・備後地区に住むこどもたちに、地元のすばらしさを知るきっかけになればと、備後マルシェを年2回開催している。地産地消の飲食ブース、学び体験ワークショップ、地元の陶芸家による陶芸体験、福山市の消防団の木遣ハシゴショー、染物体験などを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラの酵母を使い、自然のバラの香りがするワインを作ることに成功した。ピザにそういう香りが必要かどうかはわからないが、一度調べてみてもいいかもわからない。 ・備後マルシェは4回目ということで、じわじわと大きな取組になっている。 ・グループでの主催だと思うが、それぞれの取組をそれぞれに維持していこうとすると、どこかでしんどい思いになるため、みんなが集まって、一緒に協力して行う取組にしてもいいかもしれない。 ・バラや備後の名前を使っていたらありがたい。是非、新しい文化をそこから生み出す、挑戦の場になれば良いと思った。

参加者からの主な意見	市長コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・内海町中心に、国内そして外国の方に、修学旅行生を対象とした民泊事業を行っている。一泊2日や2泊3日で一般家庭にホームステイし、ありのままの暮らしを体験・交流していただくもので、これまでに146校、約12,000名以上の学生を受け入れてきた。 ・漁業体験や農業体験など、地域の皆さんのお力を借りながら、地域の資源を生かした体験プログラムを提供してきた。今後、さらに多くの生徒を受け入れ、この素晴らしい体験をより多くの子どもたちに届けたい。 ・コロナ禍を経て受入家庭が減少しており、1学年300名規模の関西や首都圏の学校の受入が難しく、ニーズがあるのに応えられない。 ・受入幅を増やせば、より多くの子どもたちに地域の温かさや魅力を感じてもらえる。福山市や内海町に遊びに来たり、住みたいと思ってくれたりするかもしれない。 ・民泊事業の運営に行政の方にも深く関わっていただいているが、受入の魅力を発信する公募の強化など、一層のお力を貸していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入家庭も高齢化が進んでいる。これからは、移住されてきた世帯の方も含め、新しい内海の担い手の人に協力をしてもらい、理解してもらおうという取組が必要かもしれない。 ・情報発信・広報について、福山市の応援団である福山アンバサダーが市内外に1,200人おり、福山のことを発信してくれている。 ・自由に発信してもらい、テーマやコンテンツを提供することもある。 ・同じように、内海の民泊と素晴らしさを発信してもらってはどうかと思う。1,200人の力を結集すれば、大きな発信力になる。 ・或いは、地域のWEBライターや市内在住のインスタグラマーの方などに協力をもらいながら、情報発信を強化していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・横島で底引き網とカキの養殖業を行っている。 ・自身も神戸からの移住者で、阪神淡路大震災を経験しているため、もし地震で津波が発生したとき、どこに避難をすればいいか。避難場所が海沿いであったり、山の上にある避難場所には海沿いの道を通って行くが、道には木の枝も落ちていて車が通れない。 ・この周辺の海は5月から10月ごろになるとクラゲが多く、漁業に深刻な影響がある。自身も5、6年前からクラゲの影響で夏の操業を止めている。クラゲを引いてしまうと道具が壊れる。市ではクラゲ対策をしていただいているため、引き続き応援してほしい。 ・底引き網漁に出ると、ごみを必ず拾う。燃えるごみは漁協で買い取りをしてもらえるが、困るのは不燃ごみ。現状海に置いて帰るしか 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災について、車で高台に行ける車道をこれから整備することは、やや現実的ではない。地震発生から津波が福山に到達するまでの4時間半をどう有効に使うか考えることが最も効果的。もちろん緊急避難場所は、津波で沈んでしまうところは指定していない。旧中学校の校舎の上などに避難することも可能だが、何よりあらかじめ避難ルートを考えていくことが一番良いことだと思う。 ・道の駅アリストぬまくまについて、鞆未来トンネルが開通すれば、福山からトンネルを経由し沼隈や内海に入っていく周遊ルートができる。その中でいくつか拠点ができる。その中でもいくつかの拠点ができていく。もちろん内海は拠点になる。その中間にあるアリストぬまくまは重要な拠点。それらがお互いにどう連携できるかが南部の振興にとって大きな要素になる。

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>ないため行政の応援がほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅アリストぬまくまが再整備されると聞いた。横島漁協は道の駅に出品できないのが現状。再整備後は出品できるようにしてほしいと思っている。 ・内海町にもすごい良いイベントがあり、自身も漁協で、11月から3月に漁師の浜売りというイベントを行っている。 ・移住してきてもったいないと思うのが、田島のノリや内海のかき小町など地元で認知されていない状況がある。PRに市長の力をお借りしたいと思っている。 ・横島や田島でかきを売っていることを知らない、寄島（岡山県）に買いに行っている人が多いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後アリストぬまくまの再整備、利活用に向けた議論により多くのステークホルダーが関わっていく、そういう議論の仕方をしていきたいと思っている。 ・昨年、田島横島を訪れたときに、生業の基盤は漁業で、儲かる漁業ができる漁場づくりを本腰になってやらないといけないと思った。内海の場合は漁業という生業そのものが地域の拠点だと、早速水産庁に行き、一緒に共同研究してくれということ議論した。漁業環境を改善するための共同研究を新年度からいよいよ立ち上げる。 ・広島大学や福山大学の有識者にも加わってもらいながら、瀬戸内の環境を短期間に改善することは難しいが、将来に向かって光が見えるような気持ちを持ちながらできるとすれば、これは大きな転換期になりえる。 ・将来は、日本のどこにもない海洋環境研究所というものが内海に立地するんだ、そんな思いまで持ちながら、この漁業環境改善に本腰を入れていこうと思っている。 ・ビニールが必ず上がってくる、それを一緒になって、処理をしてほしいという話もあった。それについても取り組んでいきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・田島でノリやカキの養殖をしている。 ・全国的に漁協が衰退産業と言われているが、田島漁協は若い漁協者が多い。漁業を継続できる体制や仕組みづくりが必要。 ・自分の中で活動の源になっている問題意識が2つあり、1つは漁業のビジネスモデル。漁業者は魚を取るだけで、売るのは別の人であり、商品の価格決定権を人に委ねていた。 ・もう1つは、温暖化に伴う環境の変化で、今まで住んでいなかったアイゴという魚がたくさん生息し、藻場の食害が起き、魚が産卵する場所やえさ場がなくなっている。 ・栄養塩不足も問題である。海の栄養塩は川からの流入と人間の生活排水の2種類が多く、福山ではどちらも供給源がない。海の生態系 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーナー制度は、正しいやり方の1つであることは間違いない。もっとライトなやり方として、出資額に見合うカキが年1回自宅に送られてくる、或いは備後マルシェに招待するというやり方も良いかもしれない。発信する情報コンテンツをもらえれば、福山アンバサダーをお願いして、オーナー集めに協力できるかもわからない。 ・学校給食の件は担当課に伝えておく。 ・芦田川の開放の件について、現時点の考え方は芦田川河口堰の開放や下水処理場の緩和運転ではなく、海洋環境の改善を国や有識者と共同研究で取り組みたいという思いを持っている。 ・芦田川河口堰の開放に、現時点で否定的な主

参加者からの主な意見	市長コメント
<p>の好循環を作るため、芦田川の水門を開いてほしい。水門ができた経過や背景は存じ上げているが、現在は技術も発達し役割も終わっているということで、改めて今必要なものか見直すのもありだと思ふ。下水処理場の緩和運転も、兵庫県の好事例もあり海にいい効果が与えられることは明らかなだと思ふため、何とか助けていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデルについては、漁協者が消費者と直接つながり価値を伝え、正当な対価をいただく関係づくりが大事。「漁師と友達になろう」をコンセプトに、うつみフィッシャーマンズフェストを開催している。 ・福山市街で、内海町でノリが生産され、カキが取れることを知らなかったとよく言われる。福山名産として県外にも営業活動を行っているが、まず市内の認知拡大が課題。 ・学校給食に内海町産のノリを使ってもらえるようチャレンジしたい。原則入札と聞いたが、こどもたちに地元においしいノリがあることを知ってもらうため、質を落さず一番摘みのおいしいノリを給食に出したい。価格だけで同じ土俵に立つのは心配なため、これから市と相談しながらやっていきたい。 ・こういう問題を一般の方々にも知らせることが大事だと思ふ、新聞を作って、自分のお客様にお伝えできるような活動を行っている。 ・カキのオーナー制度をしている。ホタテ貝にカキの稚貝をつけたロープ1本を自分で垂下し、節目節目の作業を行う。漁業体験ができ、漁業の現状や海洋環境などを伝えることができる。 	<p>張をするつもりはないが、いろいろエビデンスを集める中、同じ一級河川である岡山県の高梁川に比べ、芦田川の水量は実はそれほど多くない。川の水を流した時、その川の水がどこまで到達するかシミュレーションしている学者がいるが、その学者によると芦田川の水量はそれほど多くない。つまり、内海近海の海洋環境に芦田川の水がどれだけ影響を及ぼすのかということについてははっきりした知見ができていない。引き続き、皆さん方と議論をしながら環境問題への取組をしていきたい。</p>

【まとめの挨拶】

○市長

- ・これまで、コミュニケーションが不足しており、それぞれの取組をつなげる場が必要だというお話があった。実はそういうとして、まちづくりミーティングという事業を行っている。いろいろな方が集まって、まちづくりの課題や将来に向けて話し合い、共通の思いと考えが分かって取組が始まりまちづくりが進む、いろいろな取組がつながる場。例えば内海で1つ、田島と横島で1

- つ、或いは田島東部で1つなど作り方はいろいろあり、またエリアにこだわらないのも良い。
- ・今日は本当に参考になるお話があった。それぞれが本当に頑張っていていただき、是非行政と一緒についていく、或いは接着役になるというお約束をした。
 - ・6月には福山市観光戦略ができる。観光戦略は南部地域の振興のためという側面が非常に強い。したがって、観光戦略を作ることを契機に、この南部地域の活性化をみんなで議論する、そんな取組を進めたい。
 - ・そして、これは地域の拠点づくりという言葉で説明しているが、内海、沼隈、そして鞆に地域の拠点づくりができ、取組をみんなが協力して年間を通じて内海の良さを引き出せるように。そして今まで知っているようで実は地元の人でも知らなかった内海の良さや新しい可能性について共有できる場ができれば、一歩、内海の未来に近づいていけると思う。
 - ・南部地域振興課がいろいろな相談に乗らせていただく。一緒に頑張っていきたい。
 - ・今日はどうもありがとうございました。